

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：13801

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05807・19K20999

研究課題名（和文）相手の同質性が幼児の他者の心の理解に及ぼす影響

研究課題名（英文）Does similarity affect children's mindreading?

研究代表者

古見 文一（Furumi, Fumikazu）

静岡大学・教育学部・講師

研究者番号：70771848

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、幼児において相手が自分と同じ好みを持っていることが関係性を構築したいと考える動機に影響を及ぼすかどうか（研究1）と、相手が自分と同じグループであるか違うグループであるかが相手の心的状態の推測に影響を及ぼすかどうか（研究2）を実験的に検討した。研究1では、幼児が、相手の好きな食べ物やテレビ番組などが自分と一致している際に、次も一緒に作業を行いたいと考えることが明らかとなった。研究2では、相手が自分と同じグループであれば他者の心的状態を推測しやすいということが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの研究において、幼児期の他者の心の理解を測定する課題では、心的状態を推測する相手が誰であるかについては問題とされてこなかった。本研究において、同じグループの他者の心を推測する課題は、従来の課題よりも容易に幼児が正答していたことから、これからの幼児における他者の心の理解に関する研究に一石を投ずることができたと考えられる。また、幼児が自分と同じ好みの相手と関係性を維持・構築しようと考えていることも示唆されており、この知見は、幼児教育現場において、類似点を顕在化することによる社会性の発達へのポジティブな影響を示唆するものであるといえる。

研究成果の概要（英文）：We investigated if similarity affect children's mindreading skills. In the experiment 1, we used puppet interview task. In this task, children asked two puppets about their favorite foods, tv shows, and playing. One puppet answered all the same answers as children. On the other hand, the other puppet provided different answers. After the interview, experimenter B asked children which puppet they want to play with in the next game. As a result, significantly more children chose the puppet that was similar to the children.

In the experiment 2, we used a modified Smarties task. In this task, children chose one colour sticker and one puppet chose the same one and the other chose different one. Then, in the in-group condition, the participants were asked about the belief of the puppet which chose the same sticker. On the other hand, the participant were asked about the belief of the puppet which chose the different sticker. As a result, children answered easier in the in-group condition.

研究分野：発達心理学

キーワード：心の理解 心の理論 内集団 社会性 幼児 発達

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 心理学分野における他者の心の理解に関する研究は、1980年代より子どもを対象として数多く行われており (Wimmer & Perner, 1983 など)、4歳から6歳頃に健常児は他者の心を理解する能力を獲得するという統一見解が得られている (Wellman et al., 2001)。近年は、測定手法と課題の開発によって、他者の心の理解に関する研究の対象となる年代が幅広くなった。その結果、乳児期においても他者の心的状態を理解しているという知見や (Onishi & Baillargeon, 2005)、成人であっても他者の心の理解に失敗するという結果 (Keysar et al., 2000) が報告されている。

(2) これらの幼児期以外を対象とした研究では、それまで他者の心の理解研究の中心であった幼児期の研究結果とは矛盾する内容のものが多いため、現在も議論が続いている (Low & Perner, 2012)。その矛盾を解消するために、多くの研究者が2000年代後半ごろから他者の心の理解能力を分類し、概念を整理しようと試みている (Apperly, 2011; Surtees et al., 2012) が、それぞれの研究者が独自の分類を行っており、統一的な見解が得られていない。また、同様の問題は幼児期を対象とした研究でも指摘されており、幼児期の他者の心の理解能力を測定するために使用される誤った信念課題が、大まかには物語の登場人物の誤解を理解しているかを子どもに問うものであるということは一致していても、研究ごとにカヴァーストーリーや呈示方法などが異なっており、単純比較することができないという大きな問題がある (子安, 2016)。

(3) 研究代表者のこれまでの研究では、他者の心の理解能力を単一のものではなく、多面的に捉えるため、伝統的な誤った信念課題に加えて、様々な他者の心の理解を測定する課題を開発し、幼児期・児童期・成人期を対象として研究を行ってきた。その結果、(i) 幼児期において伝統的な誤った信念課題に通過できなくとも、同じ園に通う他児の心的状態に応じて行動を変化させることができること (古見他, 2014)、(ii) 幼児期において、他者の心の理解は、まず具体的な他者 (実際の友人) の心的状態の理解から他者一般 (物語の登場人物) の心的状態の理解という発達プロセスを遂げること (古見・子安, 準備中)、(iii) 児童期と成人期において自分とは異なる特徴を持つ「異質な他者」の心的状態の推測は困難であること (Furumi & Koyasu, 2013; 2014)、(iv) 成人期において、自分と同じ集団に所属する他者に対しては、自分とは異なる集団に所属する他者に対してよりも「相手の心を読みたい」という動機が高く、より正確に心的状態を推測できる (Ye\*, Furumi\*, Silva, & Hamilton, under review) という大きく4つについて明らかにした。児童期・成人期における研究の結果からは、他者の心の理解の失敗は、相手が自分とは異質である際により起こっており、「誰の」心を理解するかが重要であることが示唆された。そのため、幼児期においても他者の心の理解の失敗は、相手が自分とは異質である際に起こっている可能性が考えられ、課題間で「誰の」心の理解であるかが統一されていないという問題は大きな影響を与えている可能性が否定できない。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究では、幼児期における他者の心の理解に関する研究への問題点として指摘されている「研究ごとにカヴァーストーリーや呈示方法などが異なっており、単純比較することができない」という問題点について、同一の幼児に複数の課題を行うことで実験的に検討することを目的とする。具体的には、幼児期の他者の心の理解研究でこれまで多く用いられてきた Baron-Cohen et al. (1985) によるサリーとアンの課題に代表される不意移動タイプの課題と Perner et al. (1987) によるスマーティ課題に代表される予期せぬ中身タイプの課題を同一の幼児が行ったときに課題間の成績の差があるかどうかを確認することを目的とした。

(2) また、成人期の研究では、最初条件集団パラダイムを用いて分かれた集団に関しても、自分と同じ集団に所属する相手の心の理解の方が容易に行うことができたという知見が得られている。そこで、幼児においても集団を分けたときに自分と同じ集団に所属する相手の心は容易に理解できるかどうかを検討することも本研究の目的とした。

### 3. 研究の方法

こども園に通園する幼児を対象として実験を行った。具体的には、幼児に好きな色のシールを選ばせ、同じ色のシールを身につけたパペットと、違う色のシールを身につけたパペットの両方の心的状態を推測させる予期せぬ中身タイプの課題と、アニメーションで視聴する不意移動タイプの他者の心の理解に関する課題を行い、その課題間、条件間の差について検討を行った。

### 4. 研究成果

(1) 幼児期において、同一の参加児に対して複数の他者の心の理解に関する課題を行ったところ、課題間の成績には差があることがわかった。まず、課題の種類については、架空の登場キャラクターの心的状態を推測する内容であるアニメーションを使用した不意移動タイプの課題と、自分とは異なる集団に所属する相手の心的状態を推測する予期せぬ中身タイプの課題の間に有意な差はみられなかった。これは、Wellman et al. (2001) のメタ分析と一致する結果であった。一方で、予期せぬ中身タイプの課題における心的状態を推測する相手が自分と同じグループである時と、異なるグループである時では有意な差がみられ、自分と同じグループの相手の心的状態

は自分と異なるグループの相手の心的状態を推測するよりも容易であるということがわかった（図1参照）。

(2) データを収集することができた参加児の数が少なかったため、学齢や性別を要因に入れての分析は行うことができなかった。日本人の幼児を対象とした最小条件集団パラダイムを用いた研究はまだ少ないため、今後学齢による集団の効果の発達差等を検討する必要があると考えられる。

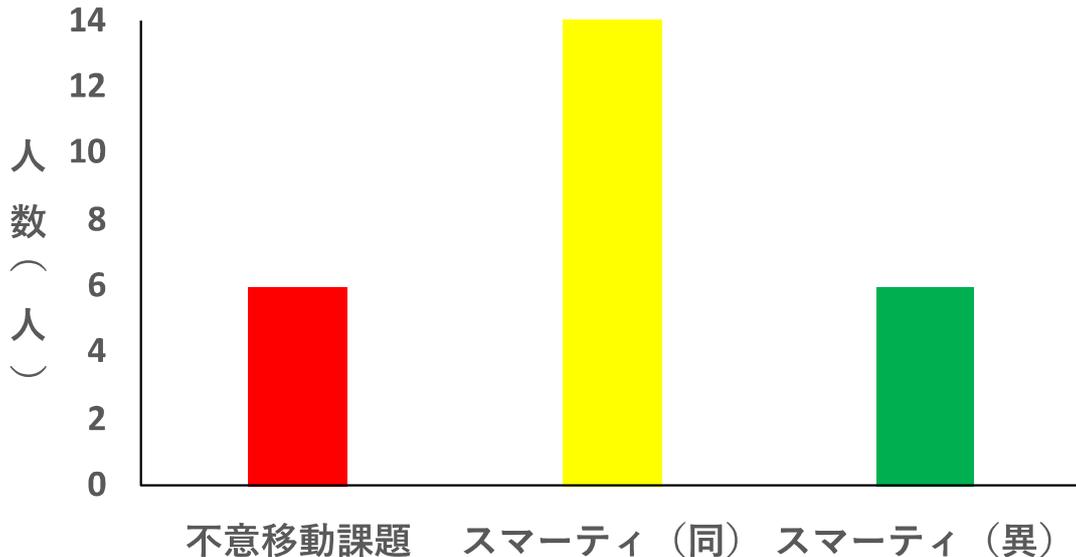


図1. 各課題における通過人数

(3) 本研究の結果から、幼児期において他者の心的状態を推測する際には、心的状態を推測する相手が誰であるかが重要である可能性が示唆された。この結果は、これまでの幼児期の他者の心の理解に関する研究、いわゆる心の理論の獲得に関する研究において、各研究者が文脈を揃えながらも、それぞれでオリジナルの課題を使用していたという問題に一石を投じるものである。また、相手が自分と同じグループに所属している際に、幼児の他者の心的状態の推測は容易となったことから、自分と相手の共通点をより顕在化し、内集団の意識を強く幼児に持たせることで、他者の心的状態の推測が促進される可能性も考えられる。これらについては今後さらなる検討が必要である。

#### 引用文献

- Apperly, I. A. (2011). *Mindreaders: The cognitive basis of "theory of mind"* Psychology Press.
- Baron-Cohen, S., Leslie, A. AM., Frith, U. (1985). Does the autistic child have a "theory of mind"? *Cognition*, 21, 37–46.
- Furumi, F. & Koyasu, M. (2013). Role-play experience facilitates reading the mind of individuals with different perception. *PLoS ONE*, 8(9), e74899. doi: 10.1371/journal.pone.0074899.
- Furumi, F. & Koyasu, M. (2014). Role-play facilitates children's mindreading of those with atypical color perception. *Frontiers in Psychology* 5:817. doi: 10.3389/fpsyg.2014.00817
- 古見文一・小山内秀和・大場有希子・辻えりか (2014). 他児の知識状態や自己の役割が幼児の発話の変化に及ぼす影響. *発達心理学研究*, 25, 313–322.
- Keysar, B., Barr, D. J., Balin, J. A., & Brauner, J. S. (2000). Taking perspective in conversation: The role of mutual knowledge in comprehension. *Psychological Science*, 11, 32–38.
- 子安増生 (2016). 心の理論研究 35 年 – 第 2 世代の研究へ 子安増生・郷式徹 (編) 心の理論：第 2 世代の研究へ (pp. 255–1-14) 新曜社
- Low, J., & Perner, J. (2012). Implicit and explicit theory of mind: State of the art. *British Journal of Developmental Psychology*, 30, 1–13.
- Onishi, K. H., & Baillargeon, R. (2005). Do 15-month-old infants understand false beliefs? *Science*, 308, 255–258.
- Perner, J., Leekam, S. R., & Wimmer, H. (1987). Three-year-olds' difficulty with false belief: The case for a conceptual deficit. *British Journal of Developmental Psychology*, 5, 125–137.
- Surtees, A. D. R., Butterfill, S. A., & Apperly, I. A. (2012) Direct and indirect measures of level-2 perspective-taking in children and adults. *British Journal of Developmental Psychology*, 30, 75–86.
- Wellman, H. M., Cross, D., & Watson, J. (2001). Meta-analysis of theory of mind development: The truth about false belief. *Child Development*, 72, 655–684.

Wimmer, H., & Perner, J. (1983). Beliefs about beliefs: Representation and constraining function of wrong beliefs in young children's understanding of deception. *Cognition*, *13*, 103–128.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 古見文一	4. 巻 33
2. 論文標題 幼児期における関係性構築動機	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 発達研究	6. 最初と最後の頁 77-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 古見文一
2. 発表標題 幼児期における関係性構築動機
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Furumi Fumikazu
2. 発表標題 Do you want to play with friends who imitates you or not? Children's motivation to make friends.
3. 学会等名 19th European Conference on Developmental Psychology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Furumi Fumikazu
2. 発表標題 Do you want to play with friends who are similar to you or not? Children's motivation to make friends.
3. 学会等名 British Psychological Society Cognitive Psychology section & Developmental Psychology section Joint Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古見文一
2. 発表標題 他者との関係性が幼児の心的状態理解に及ぼす影響
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----